

平成25年度一般会計歳入歳出予算建設委員会所管部門について
反対の立場から討論致します。

平成25年度予算は新総合計画がスタートする初年度の25年度予算の意味は大きく、市民に今後の10年の展望と課題は何かを指し示す重要な予算でした。厳しい財政状況の中、様々な財政需要があるなかで「選択と集中」に努められた予算とも言えます。所管事業が市民の安全・安心を基本に市民生活を守りつつ重点プロジェクト等の事業進捗調整はどうだったのか何を優先すべきか、このことを委員会審議でも重要な視点として審査してまいりました。様々な点に関し質疑致しましたので、主だった点について意見を述べていきます。

都市整備部

都市整備部門は、部長を先頭に調布市に於ける市民参加をリードしてきた部署と認識しています。現在策定されている都市計画マスタープランの見直しについては熱心に議論され課題も抽出、地域課題も出され具体的な解決策も提案されてきています。この度提案されている景観条例に「豊かな国分寺崖線、農の風景など先人達から脈々と受け継いできた景観は市民共通財産。これからも将来世代に継承し調布らしい豊かな自然と都市の利便性が調和した調布らしい景観を守り育ていく」この点を配慮し今後のまちづくりに生かされるよう要望するものです。

深大寺・佐須地区は農を位置づけ、関係課とも連携し条例が目指している景観を堅持するよう求めるものです。深大寺のまちづくりは今回も予算化されていますが、深大寺周辺の道路等ソフト面への配慮も欠かせません。地域での話し合いの成果が確実に事業に反映するよう実効性のあるまちづくりを要望します。

市では基本構想の基本理念にユニバーサルデザインを基本にしたまちづくりも掲げています。国体開催も迫り調布駅前整備にも取りかかる今、公共サインに対する市の指針が急がれます。まちづくりの根幹に拘わる重要な問題です。公共サインの指針を纏める所管として市全体の実態を早期に集約し景観にも配慮した調布らしい公共サインのあり方を示されるよう期待しております。

京王線連続立体交差化事業の駅周辺事業にも着手すべく予算化が提案されていますが、安心安全を視野にいれ考えると市民の安全・安心を守る事業との

予算配分はどうだったのか疑問です。本会議の質疑でも指摘しましたが、性質別予算から見ると投資的経費の本年度の伸びは著しく、その殆どが再開発であり都市計画道路です。審議で指摘したように駅前周辺の都市道路を始めとする都市計画道路は巨額な予算を伴います。また関連する再開発事業、鉄道跡地用地も適切な負担額か、今後議論になるところです。都市計画道路はまちの活性化に寄与する面もありますが、市民生活全体を考慮すれば様々な市民生活に必要な事業予算に影響がでる多額な予算を必要とします。例えば市民ニーズの高い生活道路予算審議では当初から補正ありきのような予算主義に反する答弁が合ったことは遺憾です。(原則として、一会計年度における一切の収入及び支出は、すべてこれを歳入歳出予算に編入しなければなりません(地方自治法210条)。)この事は道路を切り口に見た時、生活道路予算が圧迫されたバランスを欠いた予算内容とも言えます。今後は当初予算から適切な予算額を見積もることを要望します。

中心市街地のまちづくりは、今回議論になった景観への配慮、再生可能エネルギーの活用、そして何より駅前を最も利用する市民との協働で駅前のソフト事業を実践できるようしっかり時間をかけたまちづくりを進めるべきです。市の財政負担も大きい事業である点も考慮し、全体の進捗状況の調整を含め慎重な対応を要望します。

基本計画の初年度に当たってキーワードである持続可能な地域社会を目指すために公共交通としてのミニバス、また環境に負荷が少ない自転車の活用など今後課題となるテーマについてしっかりした方向性を持って推進するよう併せて要望します。

環境部所管について

環境政策は、市民が求めている環境保全を限られた財源の中で実現するためには今回も財源確保が大きな課題でした。新たに検討する事になっている基金の活用を早期に実現させ、様々な市民力も調布市の環境保全に生かされるよう努力をお願いします。公遊園の補修については、審議する過程でその予算額が充分でないことが明らかになりました。震災の視点からも、避難場所となる公園の予算化は優先すべきでした。深大寺佐須地区のまちづくりについては各部署との認識も一致し連携した動きが始まったようですが、田んぼや谷戸の風景は次世代へ市が残す責任があります。確実に財源を確保して後世に悔いを残さないよう取り組むことを要望します。また新たな課題であるPM2.5、或いは放射線など市民の健康に影響を及ぼす大気汚染等は、少ない経費で実現できる内容のものが多いため、都への要望と同時に市民の健康を守る視点から今後の予算増額を求めるものです。また、市民との協働という視点から再生可能エネルギー

や調布の自然環境を守る市民との協働は必須です。より多くの市民が参加できる支援体制をお願いします。

2. ごみについては高いリサイクル率を堅持している市として、この行動が環境を守る事にも繋がる基金の提案は画期的ですので、この点からも更なる啓発をお願いします。資源化施設については移転について明確にされた事からも財源を伴う事業ですので今年度末を目標に方向性を明らかにするよう要望します。新ごみ処理施設整備は順調に進んでいますが、ごみ処理施設周辺のまちづくりについてはJAXUSAの道路への協力などその努力は認めておりますが、具体的な方向性が早期にできるよう要望します。市民にとってごみ問題は最重要課題のひとつです。何故新ごみ処理施設周辺のまちづくりを進めるのか市が責任を持って説明、具体的な計画と実現できる時期も含め地域に示し実践するよう要望します。

委員会審議ではごみ処理費用の今後が議論になりましたが、本来核内処理すれば発生しなかった費用です。他市に市内のごみ処理を受け入れて頂いた必要な費用でした。額は著しく減少しますが新ごみ処理施設の負担金は当然予算化され、この額も新基本計画の新たな財政需要のなかで本予算にすでに組み込まれています。

しかし環境部予算に占める割合は大きく、今後は充分予算化できなかった本来の環境政策を検討し、自然環境と景観が守られた持続可能な地域社会実現に向け環境政策についてしっかり予算付けされるよう要望します。

両所管を通して、さて、許認可権が市に委譲され沢山の条例が提案されました。このことは地域にあったまちづくりが今後も求められている事を裏付ける事例でもあります。部長の総括説明にもありましたが、住民主体のまちづくりを進める時代を迎えました。ユーザーは誰かとお話された基本認識に立てば、住民自治を目指す地域分権に繋がり自治基本条例の本旨である自主・自律のまちづくりに行き着きます。市民と共有できる時代認識をベースに、今後のまちづくりをリードするまちを良く知る責任ある職員の人材育成をお願いします。いずれ誰のために何のためその事業をしているのかが、市民に理解される事業を推進していくことが重要です。まちづくりを具体的に進めていく最前線にいる職員の皆さんには多くの市民と向き合って日々頑張っていると認識しておりますが、何のための事業かを常に認識され事業の優先順位も考慮しながら限りある財源を最少の経費で最大の効果があがるよう事業を進めていくことを要望して予算に対する反対の討論と致します。